

2023年4月24日(月) 9:50 - 10:50

ワークショップ

ワークショップ 5**大型血管炎の診断**

第7会場 | 福岡国際会議場 4F 401+402+403

W5-2

巨細胞性動脈炎の側頭動脈生検検体トランスクリプトーム解析に基づいた免疫組織病理学的検討

[演者] 杉原 誠人:1,2,4

[共同演者] 高増 英輔:2, 知念 直史:3, 佐野 智子:1,2, 小泉 さやか:1, 木村 祥子:1, 三好 雄二:2, 永井 佳樹:2, 布川 貴博:3, 横川 直人:2, 島田 浩太:2

1:東京都立多摩北部医療センター リウマチ膠原病科, 2:東京都立多摩総合医療センター リウマチ膠原病科, 3:東京都立多摩南部地域病院 内科, 4:東京都医学総合研究所 ゲノム医学研究センター

【目的】 巨細胞性動脈炎 (Giant cell arteritis: GCA) の病態形成には不明な点が多い。本研究では側頭動脈生検 (Temporal artery biopsy: TAB) 検体のトランスクリプトーム解析に基づいた免疫組織病理学的検討を行い、病態形成に関わる因子を探索することを目的とした。

【方法】 多摩北部医療センター、多摩総合医療センター、多摩南部地域病院でTAB検体(GCA 10例、GCA以外の疾患6例)を採取し、東京都医学研究所で検体処理および解析を行った。TAB検体よりmRNAを抽出しAgilent®社のマイクロアレイチップを用いてトランスクリプトーム解析を行った。TAB検体について免疫染色を含む病理組織学的検討を行った。

【結果】 炎症性プロファイル群 (n = 8, 全例GCA) と非炎症性プロファイル群 (n = 8, GCA 2例, GCA以外の疾患 6例) の2群に分類された。2群間での遺伝子発現の比較、パスウェイ解析を行った。TAB検体のトランスクリプトーム解析で炎症性プロファイル群において1,832遺伝子の発現亢進、1,032遺伝子の発現低下が認められた。発現が亢進している遺伝子のパスウェイ解析において、マクロファージ関連シグニチャーが検出された。病理組織学的検討で、炎症性プロファイル群で血管中膜に多くの多核巨細胞が認められた。免疫染色では、疾患関連マクロファージの種々のサブタイプが確認され、遺伝子パスウェイ解析と対応していた。

【結語】 疾患関連マクロファージがGCAの病態形成に関連している可能性がある。

【COI】 有